



肺がん 2023年10月版

Oncologist Fact Report

肺がん治療医の治療状況と情報収集レポート

医師編

株式会社メディカルトリビューン

Lung cancer '23



北里大学病院 呼吸器内科 講師 中原善朗 先生

国立がん研究センターの2022年の統計によると、肺がんは日本におけるがん死亡数の第1位となっています¹⁾。一方、遺伝子変異に基づく分子標的治療や免疫チェックポイント療法の開発が飛躍的に進歩しており、新規薬剤の登場も相次いでいます。こうした背景から、近年は肺がん患者さんの生存期間は年単位での改善が認められています。

本レポートは、呼吸器内科、呼吸器外科、腫瘍内科の先生方を対象に、肺がんの実臨床における診療や情報収集の現状を調査しまとめたものです。肺がん診療に携わる先生方の情報入手経路、各施設における検査体制や治療の現状など非常に示唆に富む結果が示されています。具体的な調査項目として、①術前・術後の補助療法をどの診療科で実施しているか、バイオマーカー検査の実施状況の昨年からの変化はどうか、②周術期の治療選択について、病期やリンパ節転移（N）といった進行度によって「術前ニボルマブ+化学療法」「術後アテゾリズマブ」の処方割合はどうか、PD-L1の発現量によってアテゾリズマブのレジメンを選択する割合がどの程度変化するのか、③IV期（切除不能）のバイオマーカー検査について、AmoyDXで検査可能となった遺伝子変異が増加したことによる検査率の向上の有無や、コンパニオン診断機器でAmoyDXで診断できる遺伝子が増えたことや細胞診で診断可能なコンパクトパネルが使用可能となったことにより、どの診断機器が主に使用されるようになっているのか、④新規治療薬/レジメン（あるいは積極的に使用が推奨されなくなったレジメン）の処方経験率、満足・不満足点、処方意向、タッチポイントの違いが見られるか、等についても明らかにしています。

医師が治療法を選択する際は、各種のエビデンスを参照する必要があります。肺がん治療のさらなる進歩には、いまだ解決すべき課題も多々ありますが、医療分野に携わる皆さま方と課題を共有し、それぞれの立場で解決に向け活動していきたいと考えています。そのための一助として、本レポートをお役立ていただければ幸いです。

1) 国立研究開発法人国立がん研究センターホームページ. 最新がん統計.

目次

1	本サービスご提供の背景・肺がんに関するレポートに取り組む背景	4
2	調査概要	
	● 回答者属性	7
3	エグゼクティブサマリー	13
4	調査結果詳細	
	● 第1部：肺がんの治療実態	
	– 4-1：検査の実施状況／治療選択	20
	– 4-2：非小細胞肺がんの薬物療法の実態	
	▶ 非扁平上皮がん（ドライバー遺伝子変異陽性）	39
	▶ 扁平上皮がん／非扁平上皮がん（ドライバー遺伝子変異陰性または不明）	54
	– 4-3：開発品の認知状況	71
	– 4-4：チーム医療／治療方針	74
	● 第2部：肺がんを診療する医師の情報収集実態	
	– 4-5：専門領域の情報収集経路	84
	– 4-6：タッチポイントジャーニー	91
	– 4-7：MR／メディカル部門担当者／オンラインMR評価	123
	– 4-8：キャズム理論を参考とした回答医師のグループ分けによる考察	131

調査概要

調査
対象者条件

1. 呼吸器内科、呼吸器外科、腫瘍内科のいずれかに該当する病院勤務医
2. 直近1年間に非小細胞肺がんの患者を5人以上に診療している
※2022年11月版：直近1年間に肺がんの患者を1人以上診療している

標本抽出

Medical Tribune ウェブ 医師会員

調査手法

WEBアンケート調査

サンプル数

253ss ※2022年11月版：246ss

調査時期

2023年8月18日～9月4日
※前回調査：2022年9月13日～26日

非小細胞肺がん：非扁平上皮がん
(ドライバー遺伝子変異陽性)

非小細胞肺がん：扁平上皮がん／非扁平上皮がん
(ドライバー遺伝子変異陰性または不明)

治療薬／レジメン	試験名	発売／適応取得
アレクチニブ／「アレセンサ」	1次治療；ALEX試験	2015年12月
ロルラチニブ／「ローブレナ」	1次治療；CROWN試験	2021年11月
ブリグチニブ／「アルンブリグ」	1次治療；ALTA-1L試験	2021年4月
オシメルチニブ／「タグリッソ」	FLAURA試験	2016年5月
ダコミチニブ／「ビジンプロ」	ARCHER1050試験	2019年3月
エルロチニブ／ゲフィチニブ＋ラムシルマブ	RELAY試験	2020年12月
術後補助療法におけるオシメルチニブ	ADAURA試験	2022年8月
クリゾチニブ／「ザーコリ」	PROFILE 1001試験	2017年5月
エヌトレクチニブ／「ロズリートレク」	STARTRK-2試験	2019年9月
テポチニブ／「テブミトコ」	VISION試験	2020年6月
カブマチニブ／「タブレクタ」	GEOMETRY-mono1試験	2020年8月
ラロトレクチニブ／「ヴァイトラックビ」	NAVIGATE試験	2021年7月
セルベルカチニブ／「レットヴィモ」	LIBRETTO-001試験	2021年12月
ソトラシブ／「ルマケラス」	CodeBreak100試験	2022年4月

治療薬／レジメン	試験名	発売／適応取得
化学放射線療法→デュルバルマブ維持療法	PACIFIC試験	2018年8月
デュルバルマブ＋トレメリムマブ＋白金製剤併用化学療法	POSEIDON試験	2022年12月
ペムプロリズマブ＋PEM＋CDDP／CBDCA	KEYNOTE-189試験	2018年12月
アテゾリズマブ＋ペバシズマブ＋CBDCA＋PTX	IMpower150試験	2018年12月
術後補助療法におけるアテゾリズマブ	IMpower010試験	2022年5月
ニボルマブ＋イピリムマブ	CheckMate-227試験	2020年11月
ニボルマブ＋イピリムマブ＋白金製剤併用化学療法	CheckMate-9LA試験	2020年11月
術前補助療法におけるニボルマブ＋白金製剤併用化学療法	CheckMate-816試験	2023年3月

※レポート内で使用する治療薬／レジメンの略語一覧

治療薬／レジメン	略称
カルボプラチン	CBDCA
シスプラチン	CDDP
イリノテカン	CPT-11
ドセタキセル	DTX
ゲムシタビン	GEM
ナブパクリタキセル	nab-PTX
パクリタキセル	PTX
ペメトレキセド	PEM

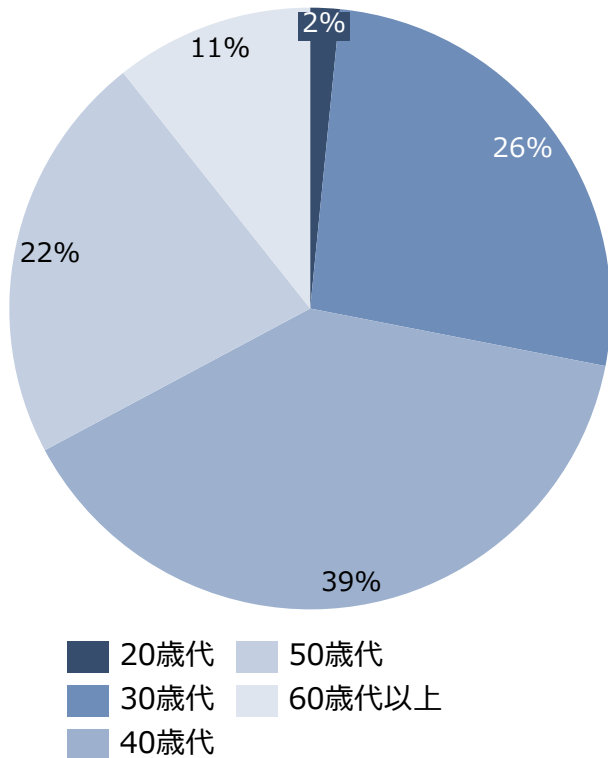
対象薬剤／レジメン

全体

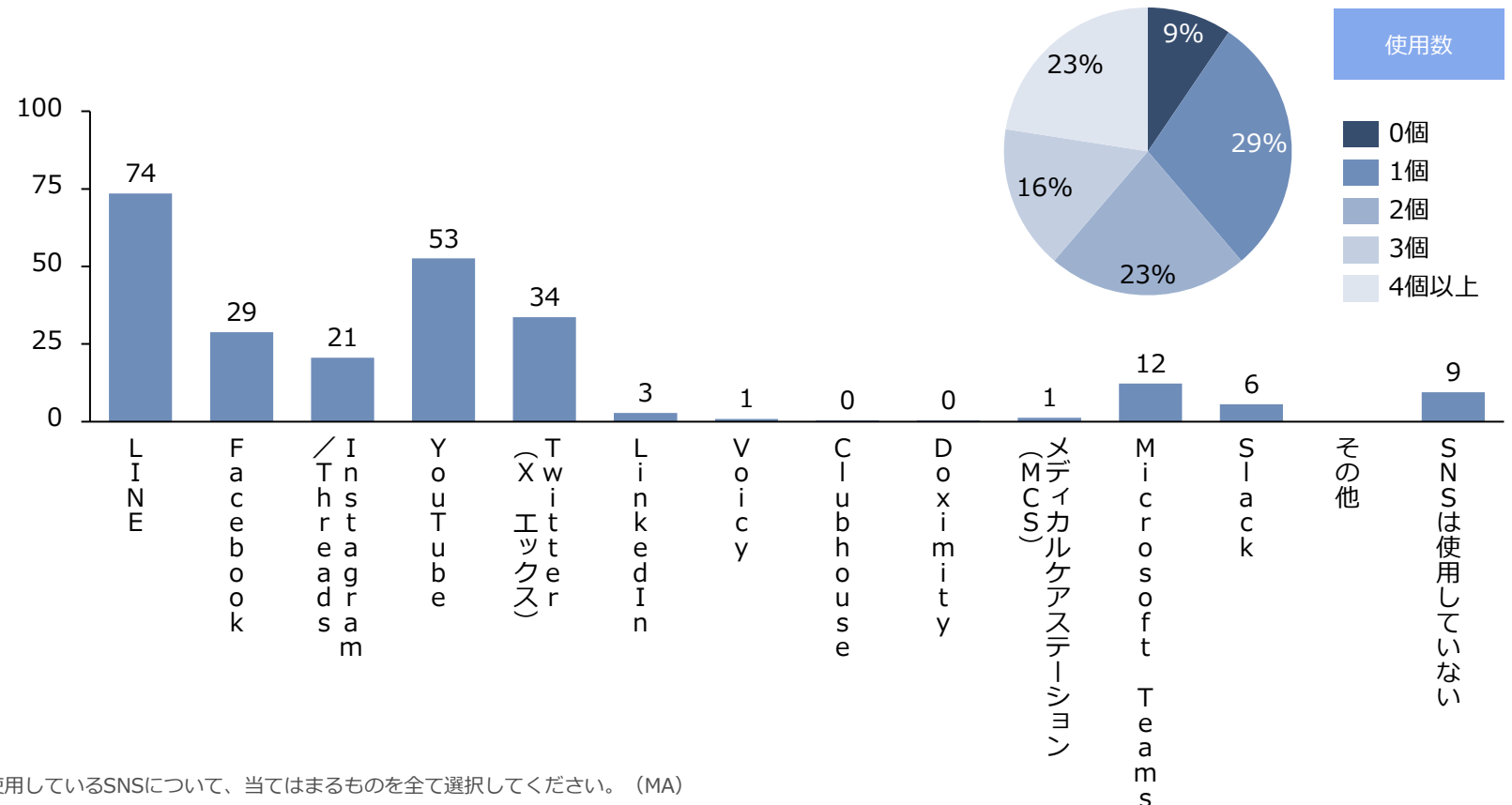
- ✓ 年齢層は40歳代が39%で最も多く、30~50歳代が中心であった
- ✓ プライベートで使用しているSNSの使用数は1個が29%と最も多かったが、複数使用の割合は6割を超えた
- ✓ SNSの種類はLINEが最も多く、次いでYou Tube、Twitter (X) だった

(n=253)

年齢層



プライベートで使用するSNS



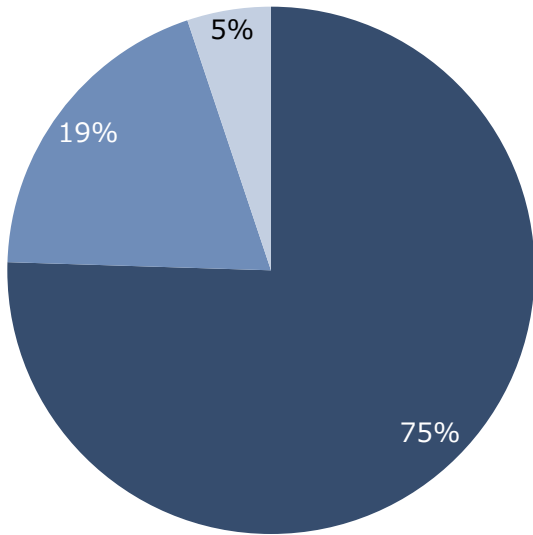
F2.先生のご年齢（世代）を教えてください。/F7.先生がプライベートで日常的に使用しているSNSについて、当てはまるものを全て選択してください。（MA）

全体

- ✓ 診療科は呼吸器内科が75%を占め、呼吸器外科は19%だった
- ✓ いずれかの役職に就いている割合は76%だった
- ✓ 薬剤の採用に関与している割合は92%、直近3年間で治験に関わった割合は42%だった

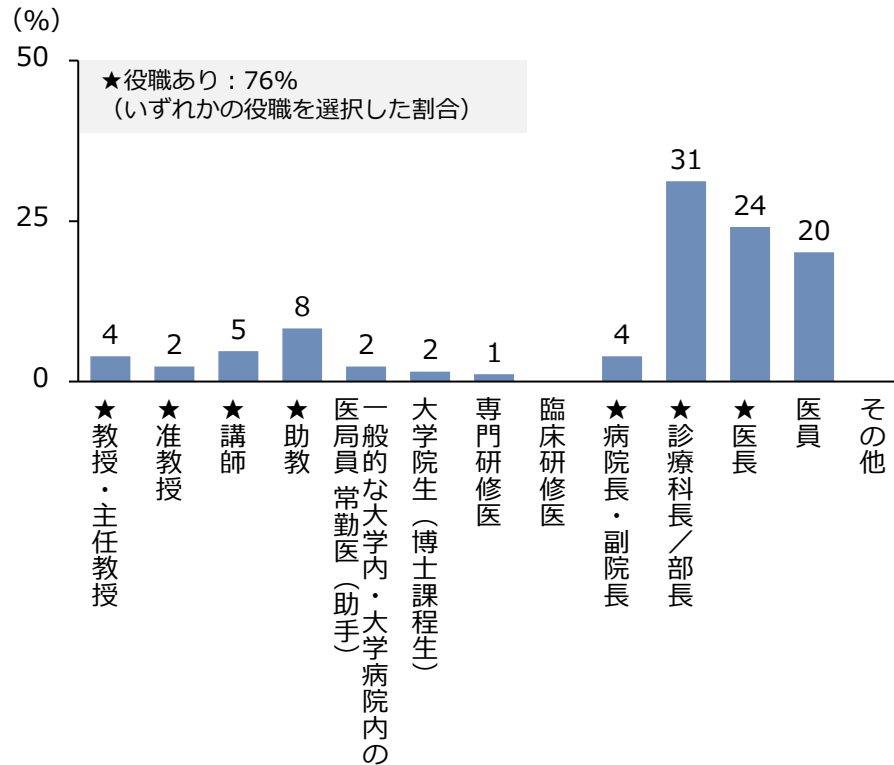
(n=253)

診療科

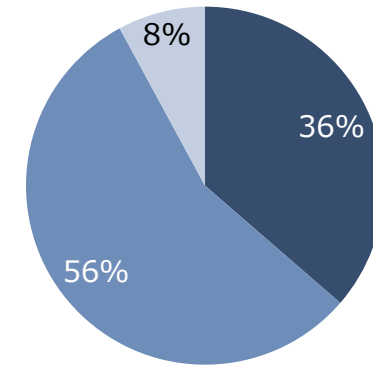


■ 呼吸器内科 ■ 呼吸器外科 ■ 腫瘍内科

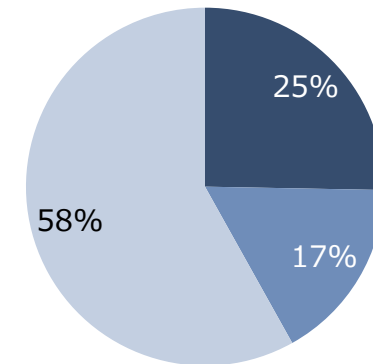
役職



採用薬・治験への関与状況



■ 採用薬の決定権がある
■ 決定権はないが、意見を出している
■ 特に関与していない



■ 現在、関わっている
■ 現在は関わっていないが、直近3年間は関わっていた
■ 直近3年間では関わっていない

SQ1.先生の主な診療科を教えてください。/F4.先生の主な勤務施設での役職を教えてください。(MA)

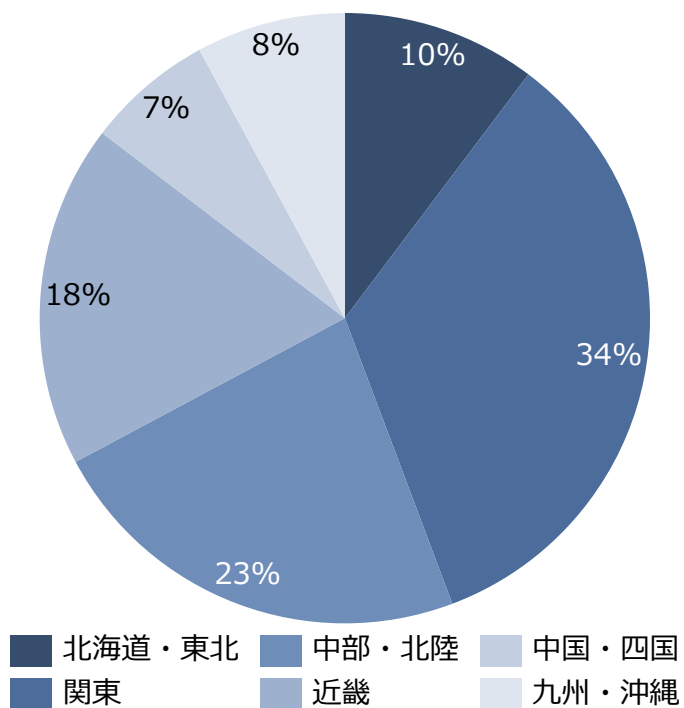
F5.先生の主な勤務施設における採用薬への関与度について、当てはまるものを選択してください。/F6.直近3年間における、肺がんの治療に関わる新薬や適応拡大などの治験への関与経験について教えてください。

全体

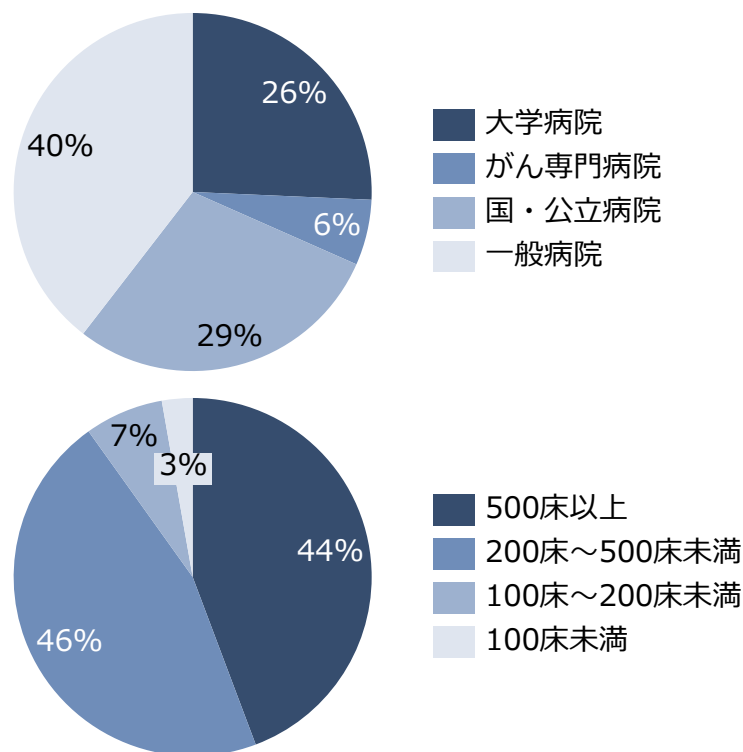
- ✓ 勤務施設のエリアは関東が最も多く、中部・北陸、近畿が続いた
- ✓ 勤務施設は一般病院が40%で最も多く、病床数は200床以上が9割を占めた
- ✓ がんゲノム医療関連施設は63%だった

(n=253)

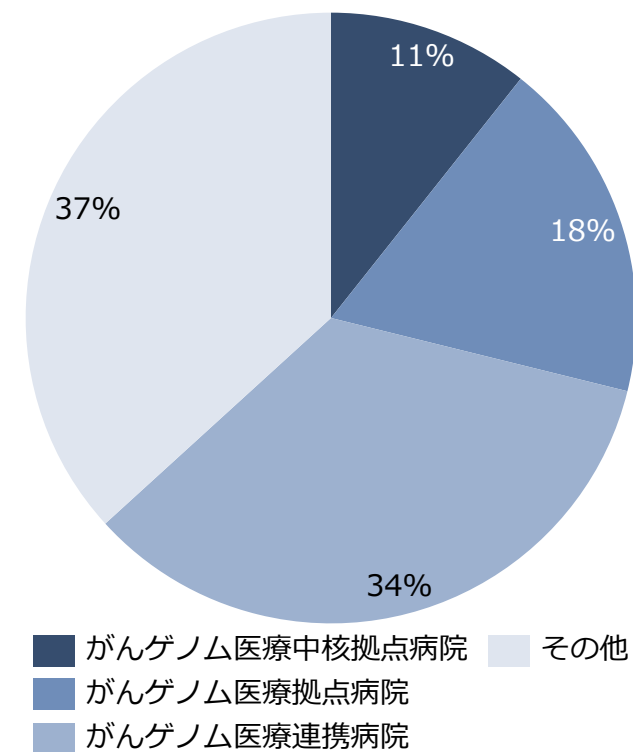
勤務施設のエリア



勤務施設の概要



勤務施設の区分

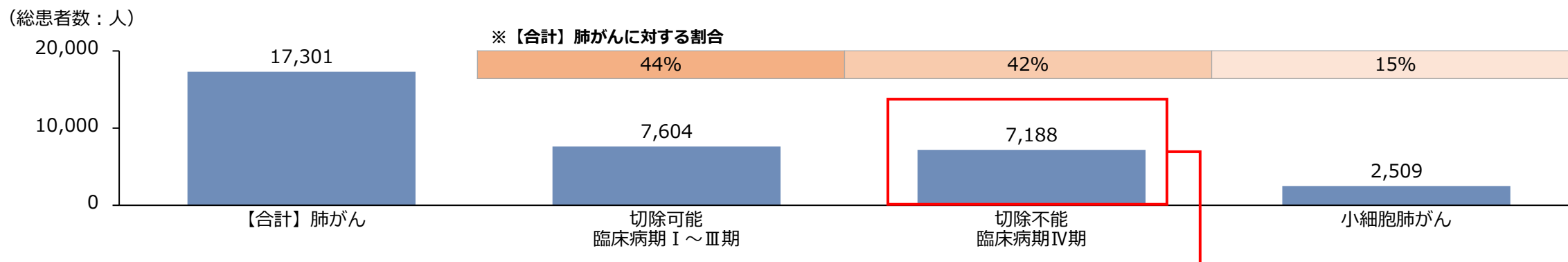


F1.先生の主な勤務施設の所在地を教えてください。/SQ2.先生の主な勤務施設を教えてください。/SQ3.先生の主な勤務施設の病床数を教えてください。/F3.先生の主な勤務先について、がんゲノム医療における施設区分を教えてください。

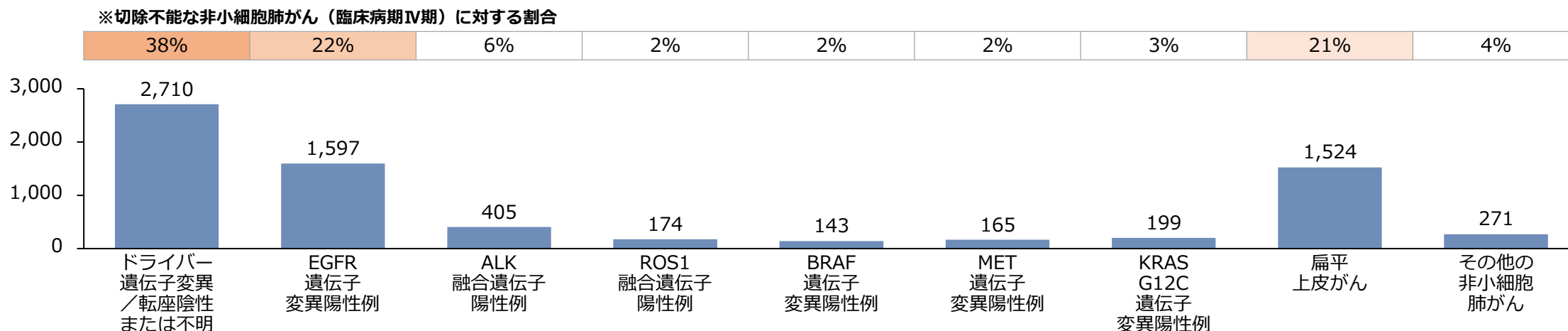
全体

- ✓ 直近1年間に診療した肺癌患者は、臨床病期Ⅰ～Ⅲ期が44%、臨床病期Ⅳ期が42%だった
- ✓ 臨床病期Ⅳ期の中ではドライバー遺伝子変異／転座陰性または不明が最も多く、EGFR遺伝子変異陽性例、扁平上皮がんが続いた

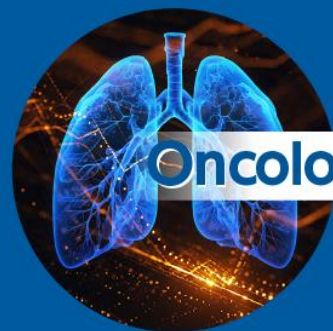
(n=253)



臨床病期Ⅳ期の内訳



SQ4.【直近1年間】に先生ご自身が診療した肺癌患者数（概数）をカルテベースで教えてください。/Q1.先生が【直近1年間】に診療した非小細胞肺癌の【臨床病期Ⅳ期】の患者数をカルテベースで教えてください。



Oncologist Fact Report

2023年10月版

医療者とともに

MT MEDICAL
TRIBUNE

CONFIDENTIAL

本資料は、貴社社内関係者のみによって使用されるものとし、本資料のいかなる部分についても、株式会社メディカルトリビューンの事前の書面による承諾を得ずに、回覧・引用・複製、あるいは貴社外部に配布してはならないものとします。